協会の取り組み

平成29年度 全国自転車問題自治体連絡協議会 全日本研修会を宇都宮市で開催

去る11月1日～2日、宇都宮市において平成29年度 全国自転車問題自治体連絡協議会・全日本研修会が開催された。自転車活用推進法の施行を受け、自転車の利用促進に向けた言及も多く見られる前向きな意見が飛び交った。初日の講演の模様をレポートする。

主催者挨拶

自転車利用促進への取り組みも加速させていく

全国自転車問題自治体連絡協議会
会長　千代田区長　石川雅己 氏
（メッセージ代読：千代田区　環境まちづくり部長　保科彰吾氏）

千代田区 環境まちづくり部長
保科 彰吾氏

「全日本研修会につきましては、全国の会員自治体による自転車問題解決に向けた継続的な取り組みとして、平成4年の本協議会設立以来、欠かさず開催しております。この間、会員の皆様による自転車駐車場の整備や放置自転車の撤去など放置自転車対策の取り組みにより、全国の駅周辺の放置自転車は大幅に減少しました。

その一方で、近年は自転車事故が社会問題化してきており、自転車走行環境の整備、自転車利用者の遵法意識やマナーの向上、自転車保険の加入促進など、新たな課題にも取り組む必要が生じています。

また、本年5月1日には自転車活用推進法が施行され、今後ますます自転車の利用促進への取り組みが加速されるものと思います。自転車は環境にやさしい乗り物であると同時に健康増進にもつながり、国内外から訪れる方の移動手段として観光の側面からも期待されています。また、シェアサイクルには将来、公共交通の一翼を担う可能性があり、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けてはサイクルスポーツの振興も期待されています。本協議会としても自転車に関する諸問題の解決に向け引き続き努力し、自転車活用や利用促進に向けても積極的に取り組んでいく必要があると認識しています。

これまで本協議会では、自転車問題の抜本的な解決を図るため、鉄道事業者への自転車駐車場の附置義務化や、自治体が自転車の走行環境整備に柔軟に取り組める環境創出などを、国などに要望してまいりました。今後も、自転車対策に取り組む自治体の意向に沿った自転車施策を強く求めるとともに、自転車に関わる全ての方々と連携・協働し、自転車施策の推進に向けて精力的に活動していく所存です。」

開催者挨拶

少子高齢化対策のまちづくりに自転車の活用を

宇都宮市長　佐藤栄一 氏

宇都宮市では自転車を公共交通の一部と考えています。日本が抱える大きな問題である少子、超高齢社会に対し、宇都宮市では「ネットワーク型コンパクトシティ」という、新しい社会の構造転換、持続できるまちづくりを進めようとしています。複数のコンパクトなまちを市内につくり、人口が減ってもコンパクトなまちで支えていけるよう自転車を含めた公共交通によって形成していこうと考えています。少子高齢化問題は明治維新にも匹敵する大きな社会変化の中で、これを成功させなくては、次の世代に我々は無力であったことを示すことになります。

宇都宮市は自転車利用に適した平坦なまちです。通勤通学で自転車を利用する人が多く、公共交通の一部として捉えています。市内でレンタサイクルを行うほか、宇都宮駅前にはシャワー等を備えた「宮サイクルステーション」を設け、スポーツバイクのレンタサイクルを行っています。安全で、走りたくなるような自転車走行空間の整備にも力を入れています。自転車のイベントとしてジャパンカップサイクルロードレースも定着し、プロロードレースチーム『宇都宮ブリッツェン』のファンも増えています。

マナーとルールを守った自転車利用、少子高齢化問題に立ち向かうツールとして自転車施策に力を入れてまいります。

講　演

「自転車は未来を救う」

宇都宮共和大学教授　古池弘隆 氏

放置自転車の問題は、この20年ほどで大きく改善されましたが、これから全自連の役割はますます重要になると考えています。世界的にも自転車の価値が見直されています。世界最大の自転車国際会議「ヴェロシティ」は年々参加者が増えています。昨年台北で開催された際には1,000人が参加しました。それだけ自転車に対する関心が高まっているといえます。

最近注目されるシェアサイクルの中心地は中国です。シェアサイクルは公共交通機関として捉えられています。

世代ごとに分けると「第三世代」といえるパリのヴェリブですが、パリ市内に23,600台、1,800ポートが整備されていて、30分まで無料で利用できます。パリでは自転車走行レーンの整備も進んでいます。バスレーンを自転車走行レーンとして共用する例もあり、欧州では多くのまちで見受けられます。他の欧米諸国では、ロンドンでも2012年の五輪を契機にシェアサイクルが普及したほか、アメリカのニューヨーク・タイムズスクエアでは以前はクルマ中心でしたが、今では歩行者天国となっていて大盛況となっています。自転車レーンの整備も進んでいます。シェアサイクルは現在750ポートに12,000台を配しています。

アジアでは台北で盛んで、2009年に始まり、今では332箇所14,500台が供されています。世界では700都市でシェアサイクルが行われています。なお、中国では杭州で世界最大規模のシェアサイクルが行われています。

日本でのシェアサイクルは小規模であり、海外の都市が4桁、5桁の自転車台数で実施されているのに対し、日本は平均170台、10ポートほどです。東京の広域実証実験では7月現在で約4,000台、約300ポートに達しました。シェアサイクルを成功させるには規模が重要です。台北でも過去小規模で実施していた頃は失敗していました。

現在、シェアサイクルの新たな世代「第四世代」が登場していて、「スマートバイク」とも呼ばれています。ラックを必要としないのが大きな特徴ですが、一部では駐輪場所の確保という問題が生じています。

宇都宮市は一桁国道では日本で初めて、国道4号で矢羽根型路面表示による自転車レーンの整備を行うなど、自転車走行空間の整備も推し進められています。

今、冒頭で触れた「ヴェロシティ」を日本に誘致しようという運動が始まっています。

講　演

「自転車がもたらしてくれるもの」

サイクルスポーツマネージメント株式会社
代表取締役社長　柿沼 章 氏
（『宇都宮ブリッツェン』運営）

宇都宮ブリッツェンはプロの自転車ロードレースチームとして宇都宮市を拠点に活動しています。現在150社のスポンサーにご支援いただいておりますが、地域振興としての意味合いが強いと捉えています。年間45レースに参加する一方で、市内の子どもたちに向けた自転車安全教室の開催や、次世代の選手育成などにも注力しています。また、自転車は「スポーツバイク」だけではなく、「ママチャリ」に乗るだけで、体への負担を抑えながら健康増進が図れる優れた面を自転車はもっていますので、自転車に親しんでいただけるような活動を続けてまいります。

事例発表

「富山市自転車利用環境整備計画」富山市自転車施策のご紹介

富山市 市民生活部 生活安全交通課
杉山 裕 氏

富山市が平坦な地形で自転車利用が多く、環境面、健康面、経済面で優れた効果がある一方、駐輪場や自転車走行空間の不足、事故の増加などの問題もあり、環境づくりが必要との判断から、「富山市自転車利用環境整備計画」を策定しました。平成23年度～32年度の10年間を計画期間としています。

計画は4本の柱「はしる」「とめる」「いかす」「まもる」から構成されます。「はしる」は走行空間の整備、ネットワーク路線の設定、統一的な案内サインや路面表示の導入、「とめる」は富山駅周辺の駐輪場の案内板の整備や自転車の放置防止の啓発、既存駐輪場の改修など、「いかす」はシェアサイクル『アヴィレ』による中心市街地の回遊性の向上など、「まもる」はルール・マナーの意識啓発として各メディアの活用や、顔写真入りの「自転車交通安全教室修了証」を交付するなどの活動を行っています。

DATA　日時：11月1日（2日：施設見学会）
会場：ホテルニューイタヤ（栃木県宇都宮市）